

高等部 1～3年 作業学習 [縫製・クラフト班] 学習指導案

日 時 令和5年11月2日(木) 10:20～11:10

場 所 縫製・クラフト室

授業者 菅 奈穂 (T1) 伊藤健人 (T2)

高橋 勝 (T3)

1 単元名 新エコバッグ・きんちやく袋を販売しよう ～「能代支援ショップ」に向けて～

2 単元の目標

(1) 目的に応じた縫い方や、用具の安全な使い方を身に付ける。【知・技】

(2) 仕上がりの良否を自分で判断し、規格を満たすための方法を考え、表現しながら改善する。

【思・判・表】

(3) 地域で販売するという共通の目標に向かって、自分の工程に責任をもち、よりよい製品を作ろうとする。【学・人】

【知・技】 知識・技能 【思・判・表】 思考力・判断力・表現力等 【学・人】 学びに向かう力・人間性等

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む姿
ミシンやアイロン、裁ちばさみ、縫製や染色に使う用具等を正しく安全に使用しながら製作することができる。	見本と比較しながら仕上がりの良否を自分で判断し、よりよい製品にするために相談したり考えたりして作業している。	地域で販売するという目標を仲間と共有し、分担された工程に責任をもってよりよい製品を作ろうとしている。

※単元で扱う主な各教科等 職業科、家庭科

4 生徒と単元

(1) 生徒について

本学習グループは、1年生3名、2年生2名、3年生4名の計9名からなる。座位保持椅子を使用している生徒が2名、不登校傾向で月2回程度参加している生徒が1名いる。口頭での全体指示は概ね理解できるが、個別対応が必要な生徒もいる。染め部門の生徒3名については、前単元から繰り返し取り組んできたことで自分の役割を理解し、自分の力で取り組もうとする姿が増えてきた。縫製部門の生徒5名については、手縫いやミシン操作の経験を生かし、自信をもって製品作りに取り組む生徒が多い。製品の質より量を重視する生徒が多く、危ないやり方になったり仕上がりが雑になってしまったりすることがあるが、9名全員が販売会の目標売上数の達成に向けて意欲的に取り組んでいる。そのため、用具を正しく安全に使用し、仕上がりの良否を判断する力を身に付ける必要がある。

(2) 単元について

本単元では、2月に実施する「能代支援ショップ」に向けて、新エコバッグときんちやく袋の製作を行う。前単元では、学校祭での販売に向けて、身近な資源であるマリーゴールドで草木染めした布を使用し、昨年度から製作しているきんちやく袋の他にエコバッグを新たに製作した。一人一人が自分の力で取り組むことができるよう作業内容を精選し、染め部門から縫製部門までの作業工程を分担して製作する。作業内容は異なるが、全員で一つの物を製作することで、自分の担当する工程に責任をもち、よりよい製品を製作しようとする力が高まると考えた。また、作業工程に加えてその理由や必要性を明確にすることで、用具の安全な使い方や目的に応じた縫い方など技術面の向上を目指したい。新エコバッグについては、保護者や地域の方のアンケートから具体的な改善案を考え、試作をしながら製作する。お客様のニーズから品質の改善を図っていくことで、作業の正確性、相手意識をもった意欲的な取組が期待できると考え、本単元を設定した。

(3) 指導について

- ・ミシンやアイロンを安全に取り扱うため、注意事項を用具の近くに貼って自分で確認できるようにする。
- ・作業工程の意味を理解して取り組むことができるように、なぜその工程が必要なのか理由を伝える。また、定期的に発問し意識付けを図る。
- ・規格どおりに製作することができるように、個々の手元に正確に作業するための要点が示された工程表を準備する。もし規格外になってしまった場合、改善すべきポイントが分かるように、具体的な作業方法を3～4つ提案し、実践する場を設ける。
- ・自分で担当作業の良否の判断ができるよう、写真付きのチェックリストや比較する実物を準備する。
- ・全員で一つの物を製作していることが視覚的に分かるように、黒板に工程表を掲示する。
- ・製品の改善点が分かるように、「お客様の声」を黒板に掲示する。
- ・自信をもって作業に取り組み、課題のレベルアップを図ることができるように、染め部門では個々の実態、縫製部門では手縫いやミシンの技術力に応じて作業工程を分ける。
- ・自分で考えたり行動したりする主体的な姿を引き出すことができるように、作業内容や習熟度に応じて教師の数を減らす。

5 指導計画（総時数 82 時間）

小単元名・主な学習活動	時数	目標	扱う主な各教科等
(1) 新エコバッグを試作しよう ・アンケートを基に、どの部分を改善するか話し合う。 (布の色、ポケット、持ち手等) ・布の草木染めをする。 ・印付け、裁断、しつけ縫い、本縫い、アイロン掛けをする。 ・新エコバッグを決める。	10 本時 9/10	・改善する部分の分かり、違いやよさに気付く。【知・技】 ・試作品の必要性を理解し、正確に作業に取り組む。【思・判・表】 ・自分の工程に責任をもって取り組もうとする。【学・人】	職1 職業生活 家1 衣食住の生活
(2) 新エコバッグ・きんちゃく袋を製作しよう ・目標個数を設定する。 ・布の草木染めをする。 ・印付け、裁断、しつけ縫い、本縫い、アイロン掛けをする。 ・きんちゃく袋のひも通しをする。 ・完成品の袋詰めをする。	60	・目的に応じて縫ったり用具を安全に使ったりする。【知・技】 ・仕上がりの良否を自分で判断し、規格を満たすための作業方法を考えたり相談・報告したりする。【思・判・表】 ・販売を意識し、自分の工程に責任をもって仕上がりのよい製品を作ろうとする。【学・人】	職1 職業生活 家1 衣食住の生活
(3) 能代支援ショップで販売しよう ・ポスターを制作する。 ・販売練習をする。 ・支援ショップで販売する。 ・売上金の確認をする。 ・振り返りをする。	12	・製品の品質や販売時の役割が分かる。【知・技】 ・売れるにはどうしたらよいか商品陳列等の仕方を工夫する。【思・判・表】 ・仲間と共に完売を目指して自分の役割を行おうとする。【学・人】	職1 職業生活

6 本時の計画（総時数 82 時間中の 9 時）

(1) 全体の目標

- ・担当する工程と正確に製作するポイントを理解し、新エコバッグの試作をする。

【知・技】【思・判・表】

(2) 個別の目標と手立て

氏名	単元の目標	本時の目標	目標達成の手立て
A (染め)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の役割や作業内容が分かる。【知・技】 ・担当する作業の要点を意識して、時間いっぱい取り組む。【思・判・表】 ・自分の工程に責任をもって取り組もうとする。【学・人】 	<ul style="list-style-type: none"> ・マリーゴールドを 50 グラムずつ計量し、袋に入れる。【知・技】 ・50 グラムになったことを発声で教師に伝える。【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> ・手を動かしやすいように、使用する用具の位置や高さを T 2 と確認しながら行う。 ・自分から教師に伝えることができた際には、称賛する。
B (染め)	<ul style="list-style-type: none"> ・担当する作業手順を理解し、準備から作業完了まで自分の力で取り組む。【知・技】 ・決められた時間いっぱい作業に取り組む。【思・判・表】 ・自分の工程に責任をもって取り組もうとする。【学・人】 	<ul style="list-style-type: none"> ・模様付けに使用するビー玉の大きさと印が分かり、一人で取り組む。【知・技】 ・印に応じてビー玉の大きさを変えて、布に模様付けをする。【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビー玉と絞る箇所の違いが分かるように、印の色を変える。 ・自分で判断し、正しくビー玉を絞ることができた際には称賛する。
C (染め)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の役割や作業内容が分かる。【知・技】 ・担当する作業の要点を意識して、時間いっぱい取り組む。【思・判・表】 ・販売を意識し、仕上りのよい製品を製作しようとする。【学・人】 	<ul style="list-style-type: none"> ・布がむらなく染まるように、へらを使用して草木染めと媒染をする。【知・技】 ・布に染液がまんべんなく浸かるように、10 分間へらで押し続ける。【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> ・手を動かしやすいように、使用する用具の位置を T 3 と確認しながら行う。 ・布に染液がまんべんなく浸かるように、T 3 が容器を動かしたり、へらで押す箇所を指差したりする。
D (縫製)	<ul style="list-style-type: none"> ・布目の縦と横が分かり、製品に応じて正しい長さで裁断する。【知・技】 ・仕上りの良否を自分で判断する。【思・判・表】 ・担当する工程の必要性和責任感をもって正確に作業しようとする。【学・人】 	<ul style="list-style-type: none"> ・布目を確認し、各部品に応じた長さで裁断する。【知・技】 ・見本と比較して、仕上りの良否を自分で判断する。【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> ・布目や仕上りの良否を自分で判断できるように、写真や実物を準備する。また、判断に迷った場合は教師に相談してもよいことを伝える。
E (縫製)	<ul style="list-style-type: none"> ・用具を安全に使用しながら、規格通り正確に製作する。【知・技】 ・仕上りの良否を自分で判断する。【思・判・表】 ・販売を意識し、仕上りのよい製品を製作しようとする。【学・人】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミシン縫いでは、一本の線になるように正確に返し縫いをする。【知・技】 ・見本と比較して、仕上りの良否を自分で判断する。【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> ・正確に返し縫いをしたり、仕上りの良否を判断したりすることができるように、縫うときのポイントや善し悪しを視覚的に示す。

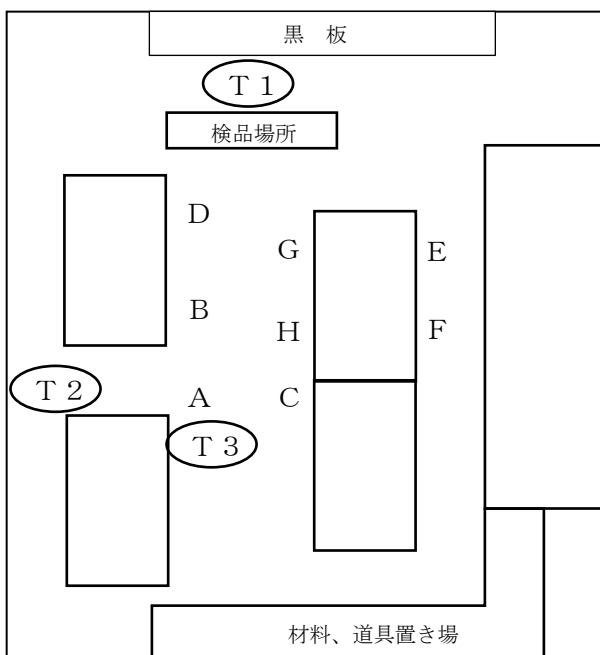
<p>F (縫製)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・部分に適した縫い方で、規格通り正確に製作する。 【知・技】 ・仕上がりの良否を自分で判断し、よりよい製品にするために工夫する。 【思・判・表】 ・販売を意識し、仕上がりのよい製品を製作しようとする。 【学・人】 	<ul style="list-style-type: none"> ・手順を守り、印どおりに真っ直ぐミシン縫いする。 【知・技】 ・口や底マチの仕上がりの良否を自分で判断する。 【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> ・印どおりに真っ直ぐミシン縫いすることができるように、姿勢やミシンの速度などを確認する。 ・仕上がりの良否を自分で判断できるように、明確な基準を視覚的に示す。
<p>G (縫製)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・部分に適した縫い方で、規格通り正確に製作する。 【知・技】 ・仕上がりの良否を自分で判断し、よりよい製品にするために工夫する。 【思・判・表】 ・自分の工程に責任をもち、仕上がりのよい製品を製作しようとする。【学・人】 	<ul style="list-style-type: none"> ・正確に印付けとミシン縫いをして、持ち手を縫い付ける。 【知・技】 ・持ち手部分の仕上がりの良否を自分で判断する。 【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> ・正確に印付けができるように、専用の型紙を用意する。また、ミシン縫いの前に印を確認する場面を設ける。 ・仕上がりの良否を自分で判断できるように、明確な基準を視覚的に示す。
<p>H (縫製)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・担当する工程の一連の流れを理解し、正しい手順で製作する。 【知・技】 ・仕上がりの良否を自分で判断し、よりよい製品にするため必要に応じて教師に依頼、相談する。【思・判・表】 ・販売を意識し、仕上がりのよい製品を製作しようとする。 【学・人】 	<ul style="list-style-type: none"> ・印を基に均等な幅で波縫いをし、布に刺繍する。 【知・技】 ・よりよい製品にするために、教師に依頼、相談をしてアドバイスを取り入れながら作業する。 【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> ・均等な幅で波縫いできるように、手元に見本を準備する。また、見やすい色のペンで布に印付けする。 ・困ったときは教師に依頼、相談してもよいことを伝える。
<p>I (袋詰め)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・用具を正しく安全に使用しながら製作する。【知・技】 ・作業内容に向き合い、担当する作業を継続して取り組む。 【思・判・表】 ・販売を意識し、自分の工程に責任をもって取り組もうとする。 【学・人】 	<ul style="list-style-type: none"> ・用具を安全に使用して作業に取り組む。【知・技】 ・決められた長さや位置を守って台紙を製作し、袋詰め準備をする。 【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> ・用具を安全に使用できるように、使用方法や注意点を視覚的に提示する。 ・達成感を得られるように、袋詰めの工程を任せる。また、安心して取り組むことができるように、別室での活動を認める。

(3) 学習過程

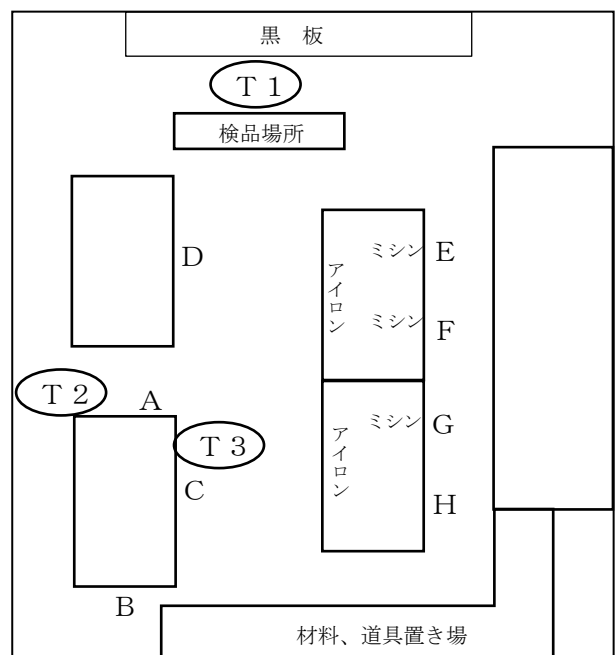
時間(分)	学習活動	手立て・指導上の留意点
10:20 (5)	1 日誌に本時の目標を記入する。	・ 正確に製作するポイントを理解して目標設定することができるように、担当の教師と目標を確認する場面を設定する。
10:25 (5)	2 はじめの会をする。 (1) 目標確認 (2) 役割確認 (3) 先生の話	・ 自分の担当する工程を流れ作業の中で理解できるように、工程表とネームプレートを使って役割確認をする。
10:30 (25)	3 作業をする。 布染め (1) 計量、袋詰め (A) (2) 豆汁染め (3) 模様付け (B) (4) 草木染め (C) (5) 媒染 (C) エコバッグ (1) しるしつけ、裁断(D) (2) 脇縫い (E) (3) マチ付け (F) (4) 持ち手付け (G) (5) 刺繍 (H) 袋詰め準備 (I)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> めあて ・ 持ち手を変えた新エコバッグの試作品を正確に作る。 </div> ・ 最後まで作業に取り組むことができるように、AはT2、CはT3が事前に作業内容と活動量を相談し、道具の配置については本人に確認しながら行う。 ・ DとEが自分で良否の判断をしながら正確に作業することができるように、判断基準が示されたポイントを個別に提示し、T1が確認しながら行う。 ・ 新エコバッグにつながる試作品の良さに気付くことができるように、T1は必要に応じて前単元で作ったエコバッグとの違いなどを比較した発問をする。 ・ 規格を意識して正確に作業を進められるように、縫製部門についてはT1が検品する。 ・ Iが安心して活動に取り組むことができるように、別室で活動してもよいことを伝える。 ・ AとCは片付けを教師に依頼し、清掃時は自分で机の上を拭く。また、T2、T3と一緒に振り返りをしながら日誌を記入する。
10:55 (7)	4 片付け、清掃をする。	
11:02 (5)	5 日誌に本時の評価を記入する。	・ 今日の成果を基に目標を達成しているか評価し、担当の教師と確認する場面を設ける。
11:07 (3)	6 おわりの会をする。	・ 試作品完成表を基に、お互いの成果や全体の作業の進行具合を確認する。

(4) 配置図

<はじめの会、おわりの会>



<作業>



(5) 板書計画

新エコバッグ・きんちゃく袋を販売しよう～「能代支援ショップ」に向けて～		新エコバッグ（案）
単元 計画表	めあて 持ち手を変えた新エコバッグの試作品を正確に作る。	
	ポイント ①よく見る ②きれいに仕上げる ③もう一度見る	
	今日の作業 エコバッグ製作の工程（染め→縫製）	

(6) 評価

（生徒）・規格どおり正確に新エコバッグの試作をすることができたか。【知・技】

・ポイントを意識し、良否の判断や報告ができたか。【思・判・表】

（教師）・規格どおり正確に新エコバッグの試作をするための手立てや教材・教具は有効だったか。

・意識するポイントの提示方法や良否の判断をするための手立ては十分だったか。